

# Letter for Members No. 14 2004

Japan  
Prosthodontic  
Society

日本補綴歯科学会

Japan Prosthodontic Society

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpds/>

発行人 大山 喬史 編集 広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 (財)口腔保健協会

Tel 03-3947-8891 Fax 03-3947-8341

平成16年8月10日発行

## 次々期会長候補適任者は平井敏博評議員に決定

日本補綴歯科学会の次々期会長候補適任者の選出にかかわる選挙が、細井紀雄選挙管理委員長のもと行われ、平井敏博評議員（北海道医療大学歯学部歯科補綴学第1講座 教授）が選出された。

平成16年6月7日の第1回投票（評議員236名へ推薦用紙送付、6月9日開票、有効投票数204票）で、得票数上位3名は平井敏博、三浦宏之、渡辺 誠（五十音順）の3氏となり、渡辺 誠氏が辞退されたため、平井敏博、三浦宏之両氏を被推薦者として、7月12日に第2回投票（評議員236名へ選出用紙送付、7月14日開票、有効投票数205票、白票4票、無効投票数0票）が行われた。

第2回投票の選挙結果は平井敏博氏 154票、三浦宏之氏 47票であり、日本補綴歯科学会細則「役員の選出に関する内規」により、過半数である103票以上を得た平井敏博氏が次々期会長候補適任者として選出された。



## 平成18年度からの「学術大会の年1回開催」と、法人化へむけての本学会の「解散および清算に関する会則改正」を総会で承認

昨年秋に長野市で開催された平成15年臨時総会（第110回学術大会時）で「社団法人の取得」の議決がなされ、法人設立にかかわる諸々の作業・準備が進められている。

本年4月には、平成16年2月20日開催の理事会決定を受けて、前鳥取大学事務局長 鈴木保典氏を本学会事務局長として迎えるとともに、(財)口腔保健協会から事務室を借り受け、独立した事務所を設置した。

法人化には、まず「定款」の策定が必要である。また、前執行部からの懸案事項である「学術大会の年1回化」の議論をあわせて進めることになっている。さる5月に東京都で開催された平成16年度定例総会（第111回学術大会時）において、「学術大会の年1回開催」と、法人化準備にかかわる諸事項の1つである「任意団体である本学会の解散および清算に関する会則改正」が承認された（文末参照）。

「学術大会の年1回実施」においては、1) 学会のアクティビティを下げないこと、2) 支部の独自性を確保すること、3) 生涯学習公開セミナーの一層の充実を図ることを基本原則とすることが確認されている。さらに各支部の活動が今以上に重要となるため、平成15年8月30日と平成16年1月31日の2回の支部長会で、① 総会時学術大会と支部学術大会の役割分担などを含む支部会のあり方について、② 支部学会の開催時について、③ 支部学会開催にかかわる経費などを含む会計について、④ 支部学会の発表内容と形式について、⑤ 認定医関連について、などの議論が進められたが、今後さらに会員の考えや意見、要望を反映できる支部学会の運営、発表形式、当日会費などについても検討を進めていく予定である。

平成 16 年 10 月に横須賀市で開催される平成 16 年度臨時総会（第 112 回学術大会時）において、**法人定款の議決**が予定されており、この議決を受けて、**平成 18 年度から年 1 回の学術大会開催が実施**される予定である。

なお、平成 16 年度定例総会で承認された会則改正は、以下の通りである。

### 日本補綴歯科学会会則改正

日本補綴歯科学会会則第 34 条により、会則の改正を提案する。改正の内容は解散および清算に関する条項の追加である。

#### 第 9 章 解散および清算

第 36 条 本会は理事現在数および評議員現在数の各々 4 分の 3 以上の議決を経て、総会の承認によって解散することが出来る。

2. 解散の決議にあたっては、残余財産の帰属先を定めなければならない。

3. 清算人は、解散決議時の会長とする。

第 37 条 清算人は、次の職務を行う。

(1) 現会務の終了

(2) 債権の取り立ておよび債務の弁済

(3) 残余財産の引き渡し

附則

平成 16 年 5 月 21 日一部改正（平成 16 年 5 月 21 日施行）

## 今年度より「生涯学習公開セミナー」 は研修単位 2 単位に！

平成 16 年度日本補綴歯科学会「生涯学習公開セミナー」の開催が 5 支部で決定した。今年度から、生涯学習公開セミナー出席者には日本補綴歯科学会認定医申請・更新のための研修単位が 2 単位与えられることに決定した。

開催予定は以下のとおりである。

### 九州支部

日 時：平成 16 年 8 月 28 日(土) 16：30～18：30

会 場：福岡県歯科医師会館（福岡市）

テーマ：「下顎オーバーデンチャーのコンセンサス」

長岡英一（鹿児島大学大学院）

高橋 裕（福岡歯科大学）

### 中国・四国支部

日 時：平成 16 年 9 月 5 日(日) 10：30～12：30

会 場：高知新阪急ホテル（高知市）

テーマ：「顎口腔の美に迫る」

座 長 石橋寛二（岩手医科大学）

「美肌へのアプローチ」

堀 公彦（花王(株)スキンケア研究所）

「健康な歯を模倣するために」

山本尚吾（SHOW DENTAL）

### 東北・北海道支部

日 時：平成 16 年 9 月 11 日(土) 14：30～16：30

会 場：ホテルメトロポリタン盛岡（盛岡市）

テーマ：「前歯部審美の最前線」

「前歯部 MI 審美修復の現状」

富士谷盛興（広島大学大学院）

「前歯部審美の臨床」

宮内修平（大阪市開業）

### 関越支部

日 時：平成 16 年 9 月 12 日(日) 15：00～18：30

会 場：日本歯科大学新潟歯学部講堂（新潟市）

テーマ：「歯冠修復とインプラント治療を見直す」

座 長 西川義昌（東京都開業）

「歯周組織を見据えた補綴治療のあり方」

茂野啓示（京都市開業）

「補綴主導型インプラント治療の展望」

小濱忠一（いわき市開業）

コメンテーター 山崎長郎（東京都開業）

### 東海支部

日 時：平成 16 年 11 月 28 日（日）

会 場：松本歯科大学（塩尻市）

テーマ：「補綴とカー補綴臨床における“力”の問題点とその対策一」

座長 山下秀一郎（松本歯科大学大学院）  
谷口威夫（長野市開業）  
池田雅彦（札幌市開業）  
加藤隆史（松本歯科大学）

### 「認定医制度のしおり」ダウンロード化へ

平成16年7月より日本補綴歯科学会「認定医制度のしおり」に記載されている認定医・指導医・認定機関の申請・更新に必要な書類が、日本補綴歯科学会のホームページからのダウンロードが可能となった。

### 第111回日本補綴歯科学会学術大会と第2回大韓補綴歯科学会（KAP）とのJoint Meeting 開催される

平成16年5月21日（金）～23日（日）、大山喬史大会長のもと文京シビックホールにて第111回日本補綴歯科学会学術大会が開催された。一般口演49題、ポスター72題、課題口演18題、国際セッション口演9題、同ポスター17題、合計165題の発表が行われ、参加者は2,000名余りであった。

### 第2回KAP & JPS Joint Meeting 報告

近年本学会は隣国の韓国との学術交流を深めており、昨年ソウルで第1回のKAP（The Korean Academy of Prosthodontics：大韓補綴歯科学会）とJPS（Japan Prosthodontic Society：日本補綴歯科学会）のJoint Meetingが開催された。本年は第2回目として第111回学術大会との併催で行われた。

学術大会2日目（土）に国際セッションが企画され、KAPより口演5題、ポスター9題、JPSより口演4題、ポスター8題が採択され、口演はKAP、JPSより1名ずつがCo-Chairmenとして座長を務め活発な討議が行われた。

また、特別講演としてKAPのIn-Ho Cho会長により“Influence of Implantology on Conventional Prosthodontics in Korea”の題名で韓国におけるインプラント診療の現況が紹介され、昨今のインプラント普及の高いことをうかがい知ることができた。



Cho 会長へ感謝状贈呈

国際セッションでは口演、ポスターより秀逸な演題1題ずつが選考委員会により選出され表彰された。受賞した演題は口演がソウル国立大学のDr. Chung S-Hらによるインプラントの形状と表面処理の差を動物実験で評価した基礎研究、ポスターが慶熙大学のDr. Lee S-Bらによる磁性アタッチメントとバーアタッチメントを併用したインプラント義歯の臨床研究である。

KAPからは約50名の会員が参加し、現役役員ばかりでなく歴代会長のAdvisor4名も同行するほど、本学会に対する熱意の高さがうかがわれた。

国際セッション終了後、会場の文京シビックホール最上階でKAP & JPSの合同レセプションが開催され、KAPの参加者全員とJPS役員等による交流の場もたれた。

懇親会ではJPSより大山会長、野首副会長、赤川副会長、川添前会長、早川東京支部長の挨拶、KAPよりCho会長、Chung次期会長の挨拶があり、またJhee KAP Advisorからは流暢な日本語で古き日本の歯科事情、今後の両国間の展望について格調高いスピーチが行われた。



懇親会にて Dr. Jhee 挨拶

また、国際セッションの受賞について前記2名の選出が古谷野国際渉外委員長より発表され、ブランクと賞金が授与された。

そのほか、余興としてフルートの二重奏、主催

の東京医科歯科大学の伝統古武道である躰道の演武などが行われ、賑やかな会に色を添えた。

なお、今後の Joint Meeting は 2 年おきに両国間で交互に開催することになり、今回は 2 年後に韓国にて行われる予定である。

(東京医科歯科大学院・秀島雅之)

## 第 111 回学術大会報告

### 特別講演

#### 「審美歯科を美術解剖学・心理学からみる」

第 109 回学術大会のメインシンポジウム「形態・機能美からトータルな美へ」に続く「審美」の企画第 2 弾である。司会は 109 回学術大会シンポジウム座長を務められ、また 111 回学術大会の大会長である大山喬史会長（東医歯大院）がその主旨を説明された。講師は 109 回に引き続き、東京芸術大学美術学部美術解剖学教室の宮永美知代先生と、新たに早稲田大学人間科学部臨床心理学研究室の山崎久美子先生のお 2 人であった。

宮永先生は「美術から見えてくる顔の魅力」と題し、人が心を惹きつけられる理由を考察する方法として、「かたち」を分析的に扱い、そこから導かれた要素を問い、「かたち」の意味を考えていくという美術解剖学の視点から顔の見方を紹介された。

日常では目鼻口眉などの顔の諸器官の変化である表情を、光と陰のなかでお互いの顔をみているが、絵画に表現される顔もこれらに強いこだわりをもって描かれたものであるからこそ魅力的であり、それらの自然的ルールとしては、「光は対象人物の右から」「人物は左側が描かれる傾向」「造形では左右非対称で表されることが多い」などがあることを、多数の西洋絵画や日本の伝統的人物画を提示しながら「自画像や肖像にみる魅力的な顔の表現」を解説された。

「美しさをめぐる心理」と題した山崎先生は、美とは何か。人はなぜ美を追い求めるのだろうかという人間心理の原点にたつて美の価値観について言及された。

美人は教育の現場やジャーナリズムで歴史的にどのように扱われてきたかという問題について、美人論、美人研究、美人コンテスト百年史などの文献を紐解きながら解説され、時代の変化による目鼻立ちの変化より、風俗史の変化にもなつて美人観が変遷してきたことを紹介された。

さらに現在の「審美歯科」の普及がもたらす効

果について、情報社会により、刺激されるコンプレックスとその解消ができる心理的な効果があること、美しさの獲得が身近になり、ますます外的価値を重視する文化になってきたこと、結果として美容産業にお金をつぎ込み、これは消費の拡大につながり、経済的効果をもたらすことなどを述べられた。



表彰される宮永先生

価値観は時代とともに変遷するが、その変曲点としてあげられるのは 1980 年代の「モーレツからビューティフルへ」であり、さらにダイエットブームに火がつき外的価値が内的価値より優先する文化へ、そして「人より輝きたい」という心理はトレンド的な個性的な職種を求めることにつながったのが現在であると解説、また「外的価値＝個性的であること」であり、その「結果＝価値は他人の視線を浴びること」と現在の美の心理は外的価値観にあると分析された。

あらためて「美」の奥の深さを感じた講演であった。



ご講演される山崎先生

(広報 沖本)

### シンポジウム「8020 と補綴臨床」

大会 2 日目午後、第 1 会場にてシンポジウム「8020 と補綴臨床」が開催された。福島俊士先生（鶴見大）を座長に、石井拓男先生（東歯大）、宮地建夫先生（東京支部）、安井利一先生（明海大）、矢谷博文先生（阪大院）の 4 名にご講演いただいた。



講師の先生方

まず座長の福島先生は、このテーマは前2大会の臨床シンポジウムのテーマ「SDA：短縮歯列」との共通部分が多く、「生活の質の向上」という点で深く関連し、「8020運動に補綴は何ができるか」に焦点を絞って論議すると述べられた。

社会歯科学の立場から石井先生は、老人保健法制定時、歯科が成人保健事業に組み入れられず、そのため「8020運動」を提唱し、今では国民の60%以上に周知される社会現象となったこと、そしてそれは健康増進法の成立の魁となったことなどを述べられた。現在70歳20歯以上の者は30%を超え、なかでも処置歯増加の傾向から、歯科医師の努力によって8020者は増加すると考えられ、「歯科医師の努力が国民の喜びに、国民の喜びが歯科医師の喜びに」という言葉が印象的であった。また、日本補綴歯科学会に対して、口腔機能と全身状態の関係についての科学的裏づけを期待する、と結ばれた。

続く宮地先生は、80歳28歯や80歳22歯などの補綴長期症例を教示しながら、20歯の臨床的意味、8020の可能性、喪失理由と補綴臨床について講演された。「8020運動」開始当初、20歯は贅沢すぎる数とされていたが、今では安全エリアの必要最小値と考えられること、問題は歯の喪失ではなく咬合崩壊であることを強調された。また、日本補綴補綴歯科学会が臨床疫学データをもっと大事にし、前面に押し出すことを望まれた。

3人目の演者である安井先生は、予防歯科学的見地から歯の喪失因子を考察し、なかでも咬合支持の欠如が大きな因子のひとつであることを強調された。つまり、早期の補綴治療は残存歯の喪失リスクを低減させるためにも必要と述べられた。

矢谷先生は、補綴治療が支台歯の生存に貢献しているか、またほかの歯に対してはどうかという2つのクエスチョンに焦点を絞り、文献レビューをされた。しかし、国内の補綴治療の予後成績はほとんど不明であるため、日本補綴歯科学会主導型のマルチセンター・スタディの必要性と、その

ための大型の科学研究費獲得の必要性を提言された。

最後に各演者の学会への提言を再確認してシンポジウムは終演した。本テーマに対する会員の関心の薄さを懸念する声もあり、演者らの提言を学会として、会員としてどう受け止め、対処するかが今後のわれわれの課題であろう。

(広報 松山)

### 研究教育研修「クリニカルパスと症型分類 —日本補綴歯科学会の新たな戦略：アカ ンタビリティのある治療を目指して—

はじめに、座長の市川哲雄委員長（徳大院）から、現在医療問題検討委員会で策定中の「クリニカルパスと症型分類」について、会員への周知と、その策定案のコンセンサスを得ることを目的としている本研修の旨が説明された。座長による導入検討の背景の説明から始まり、委員会による症型分類案が以下の順番および内容で各委員により発表された。



座長の市川哲雄先生

座長 市川哲雄委員長（徳大院）  
 症型分類 1-1（形態的困難度）  
 秀島雅之委員（東医歯大院）  
 症型分類 1-2（心理社会的困難度）  
 佐藤博信委員（福歯大）  
 症型分類 2（能力検査、審美、顎機能の検査法）  
 服部正巳委員（愛院大）  
 追加発言者として、宮地建夫先生（東京都開業）、石上友彦先生（研修教育検討委員会委員長）が発言された。

発表後、フロアから数名の先生方により質問があった。いずれの質問も、本質的、重要な問題でこれからの委員会の活動に有意義な提言であった。本委員会のテーマは、非常に難しい問題であり、このような症型（障害）分類については、対象となる障害の要素が多岐にわたり、症型（障

害)分類を設定する際に問題が多いのは会員にもよく理解されているところである。しかし、症型(障害)分類の設定は、時代の要請にも沿ったもので、早急の対応が是非とも必要といわれている。難易度を決めるのは非常に困難なことは全会員が理解しているところでもあり、修正も前提として、この症型(障害)分類の策定を本委員会が精力的に進めていくことに期待している声が聞かれた。



講師の先生方

(広報 貞森)

治療まで含めて概説された。土曜日最後のセッションで時間も延長していたが、多数の先生方が参加され、熱気あふれる研修であった。

(広報 北川)

### 技術・技工セッション 「電鑄システムを応用した歯科補綴装置」

大会1日目夕刻、第2会場にて技術技工セッション「電鑄システムを応用した歯科補綴装置」が行われた。座長の末瀬一彦先生(大歯大歯技専)より電鑄システムの概略が説明され、引き続き松浦賢治先生(ケン.デンタリックス)、山本尚吾先生(ショウデンタル)の2人から、それぞれのラボで用いられている2つのシステムについての症例発表が、また渡邊文彦先生(日歯大新潟)からはこれからの可能性について興味深い話がなされた。



座長の末瀬先生

講演では電鑄システムをテレスコープシステム外冠への応用した非常に良好な症例を多数提示され、従来の摩擦力により義歯を維持するのとは異なり、唾液を介在させた適合の良さと、表面の滑沢さを利用した吸着力による維持が可能であり、その維持力がほとんど変化しないとのことであった。

講演後、会場からも多くの質問がなされ、会員の関心の高さを感じた講演であった。



講師の先生方

(広報 諸井)

### 臨床教育研修 「歯科補綴治療における診査・診断」

「歯科補綴治療における診査・診断」をテーマに若手の研究者を対象にした臨床教育研修が、佐々木啓一先生(東北大院)を座長として、松村英雄先生(日大)、細川隆司先生(九歯大)、小正裕先生(大歯大)の3名にご講演いただいた。

まず、座長の佐々木先生が従来のクラウンブリッジ、パーシャルデンチャー、フルデンチャーという分類から離れて、今回のセッションが企画された経緯と方向性について述べられた。

松村先生は、「接着技法の応用に関する適応症と治療方針」と題して、メタルコアからラミネートベニアまでの大変広範囲にわたる補綴装置の表面処理と接着術式、さらには予後について、豊富な臨床例を掲示されながらお話しされた。

続いて細川先生は「インプラント補綴の適応症と治療方針」と題して、前日の研究教育研修で取り上げられ、現執行部の重点課題でもある症型分類1-1(形態的困難度)を含んだ最新のトピックスとエビデンスに基づく補綴設計、さらには逆説的ではあるが、ほとんどの症例が適応症であるとの報告がなされた。

最後に小正先生が、「高齢者の補綴治療における治療方針」と題して、現在の日本の高齢社会の現状と歴史的背景、そして高齢者歯科学の実際の治療方針や内容を外来、訪問、さらには短期入院

**認定医研修**  
**「補綴治療の予後に直結する落とし穴**  
**—補綴治療と歯根破折—**

5月23日(日)午前、第10回認定医研修会が開催された。学会最終日にもかかわらず、300人を超える参加者があり、会場は立ち見ができるほど熱気に包まれていた。今回のテーマと認定医への強い関心のあらわれであろう。

テーマは、「補綴治療の予後に直結する落とし穴—補綴治療と歯根破折—」で、座長に三浦宏之先生(東医歯大院)、講師に坪田有史先生(鶴見大)、柏田聡明先生(東京支部)、月星光博先生(愛知県開業)の3名の先生方をお招きして講演が行われた。



表彰をされる講師の先生方

まず座長の三浦先生から、無髄歯の補綴治療における現状とその問題点などについて報告があり、3名の演者の先生方に対して依頼された講演内容を示された。

一番手の坪田先生は、「補綴治療失敗の頻度とその原因」と題して、クラウンブリッジの術後経過について、文献レビューによりその分析方法や生存率についてふれられた後、失敗の原因および失敗率について説明され、失敗に対する対策についても言及された。

二番手の柏田先生は、「歯根破折の原因とその予防」と題して、鑄造支台築造は過去の継続歯の欠点を克服されたものであるにもかかわらず、トラブル症例を観察すると「ツーピース継続歯」にすぎないと警告された。トラブルに対する予防としては、「咬合力」と「細菌」に抵抗する処置を行うことが重要であると説明され、その具体的な対処法を示された。

三番手の月星先生は、「歯根破折歯の治療方針」と題して、歯根破折の診断法について基本的なものから最新鋭の機器を利用したものまで紹介された後、歯根破折の臨床的分類を示され、それぞれ

に対する具体的な治療方針を臨床例を用いてわかりやすく報告された。

ディスカッションでは、座長を中心に討論がなされ、会場からも質問があり活発な討議がなされたが、その際講演者同士による熱弁が繰り上げられる場面もあり、とても興味深いものであった。

認定研修と同時に行われた認定医申請ケースプレゼンテーションは、重度歯周病に対する補綴症例1ケースとアタッチメント義歯症例3ケースの計4ケースで、厳正な審査が行われた。

(広報 濱野)

**課題口演受賞者**

日-会場-演題

1-1-1 強制開口負荷は軟骨細胞のアポトーシスを介してウサギ顎関節の軟骨破壊を引き起こす

○藤澤拓生, 笠井昭夫, 園山 亘, 小島俊司, 上原淳二, 窪木拓男(岡山大学大学院医歯学総合研究科顎口腔機能制御学分野)

1-1-2 水熱処理した陽極酸化チタン表面上でのマクロファージからのBMP-2遺伝子発現

○武部 純, 石岡道久, 中里好宏, 山崎泰嗣, 安達孝二, 石橋寛二(岩手医科大学歯学部歯科補綴学第二講座)

1-1-7 チェアサイドでの咀嚼運動検査

○石川輝明, 坂東永一, 薩摩登誉子, 重本修伺, 北村万里子, 川口貴穂, 細木真紀, 大塩恭仁\*(徳島大学歯学部第二歯科補綴学教室, \*徳島大学医学部・歯学部附属病院総合歯科診療部)

1-1-9 チェアサイドでできる寒天篩分法を用いた咀嚼能率測定法の開発とその臨床応用

○築山能大, 小原篤夫, 古谷野 潔(九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座咀嚼機能再建学分野)

1-2-1 ラット臼歯喪失歯数の違いが高次脳機能に及ぼす影響—TrkB mRNA 評価—

○山崎薫子, 虫本栄子, 小林琢也, 田中久敏(岩手医科大学歯学部歯科補綴学第一講座)

1-2-7 義歯装着患者向けに開発した口腔湿潤剤の性質と効果

○菅 武雄, 林 裕章, 出崎 聡, 奥野典子, 千代情路, 松嶋利晴, 日野恬男\*, 森戸光彦(鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座, \*大阪府吹田市)

## デンツプライ賞受賞者

日-会場-演題

1-3-4 繰り返し荷重によるファイバーポスト併用レジン支台築造の検討

○西村 康, 坪田有史, 大衞貴俊, 松本幸文, 大塚真範, 深川菜穂, 橋本 興, 福島俊士 (鶴見大学歯学部歯科補綴学第二講座)

1-4-4 骨シンチグラフィーを用いた義歯床下骨組織の代謝回転

○横山政宣, 山口慶一郎\*, 佐々木洋人, 小山重人, 伊藤正敏\*, 佐々木啓一 (東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野, \*東北大学サイクロトロンラジオアイソトープセンター核医学研究室)

1-5-5 8020 高齢者と高齢無歯顎者の嚥下動態の比較考察

○吉川峰加, 吉田光由, 津賀一弘, 赤川安正 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科先端歯科補綴学研究室)

2-4-2 Prosthodontic Application of Magnetic Attachment Combined with Bar-Joint Structure in Implant Dentistry

○Lee S-B, Yamamori T\*, Tanaka Y\*, Ohmiya N\* (Department of Prosthodontics, Kyung Hee University Dental College, \*Ohu University)

2-4-9 Observation of Microstructural Changes in the Molar Alveolar Bone of Ovariectomized Monkeys

○Rezwana BA, Tanaka M, Kohno S, Ikegme M, Watanabe N, Ali MN, Ejiri S (Division of Removable Prosthodontics, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences)

### ☞ ニュース 日本補綴歯科学会新規名誉会員

川口豊造先生 (愛知学院大学)

藤井輝久先生 (朝日大学)

長澤 亨先生 (朝日大学)

## 広報アンケート結果

第111回大会抄録集に綴じ込みのLetter for Membersに関するアンケートに116名の回答をいただいた。アンケートの集計結果は以下の通りである。

1. Letter for Members をお読みになったことがありますか はい 91%
2. Letter for Members No. 13 (補綴誌 48 巻第 1 号綴じ込み) について
  - 1) 読んでいただけましたでしょうか? はい 82%
  - 2) 読んでいただいた方におたずねします  
①興味があるコンテンツはどれですか? (複数回答可)
    - ・学術大会の年 1 回開催実現への検討 (95%)
    - ・GNYAP と JPS との共催学会開催 (71%)
    - ・秋特別号アンケート結果 (88%)
    - ・会員の声 (91%)
    - ・取材報告 (認定研修機関) (79%)
    - ・関連国際学会報告 (87%)
    - ・支部学術大会報告 (83%)
    - ・次回学術大会案内 (90%)
    - ・今後の学術大会案内 (97%)
    - ・支部会案内 (82%)
    - ・ニュース (95%)
  - ②字の読みやすさはどうですか? 読みやすい 94%
  - ③文章の読みやすさはどうですか? 読みやすい 96%
3. 取り上げて欲しいコンテンツがございましたら、ご記入下さい。
  - ・会員の声をもっと。
  - ・会員からの意見とそれへの回答。

Happy Smiles  
Heartful  
Communication

心身ともに健やかに...  
これがモリタの願いです

MORITA

株式会社モリタ 株式会社モリタ製作所 株式会社モリタ東京製作所  
www.dental-plaza.com



- ・現状でよいのでは
- ・無記名で可となる「目安箱」のようなものを
- ・各大学補綴診療室の見学記
- ・他の学会との関係について (Joint Meeting の開催 (国内))
- ・海外国際学会で共催したものは、若い会員も等しく名前を挙げてほしい。貴重な協力者であります故、氏名ぐらいいは載せてほしい
- ・いまのままで十分です。とても充実している
- ・名誉会員の方の現状
- ・認定医によるメリット (法人化して専門医後も)
- ・学術大会の事前登録者数と実質参加者数のギャップについて。なぜここまで実質的な参加者が減っているのか
- ・認定医ケースプレゼンテーションである期間 (年) のベスト
- ・認定医としての活動
- ・補綴的な勉強会等の案内

4. Letter for Members は、ホームページでもご覧いただけますが、ご存じでしたか？

はい 57%

5. その他意見

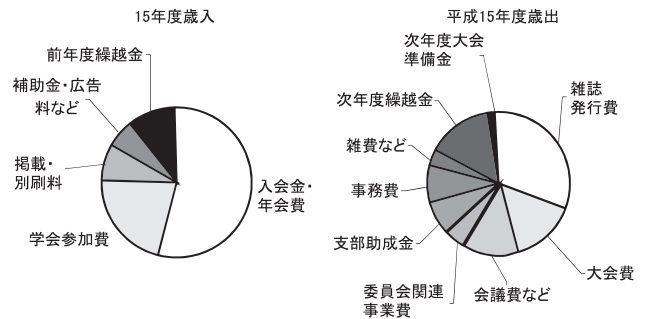
- ・P 13~14 はもっとコンパクトにまとめた方がよい
- ・以前よりも (補綴誌よりも) 親近感を感じている。このまま継続を
- ・ホームページについて  
見てはいなかったが、HP に出しているのであれば印刷物はいらぬ (費用軽減)。むしろ、HP に使える情報を充実させてほしい (演題申込みを一括して Web 上で行うとか)
- ・会員と本部の Q & A が面白い
- ・文字がやや大きく行間が狭いように思う。
- ・ポスター発表の盗撮が多いのに驚いている  
外国の先生も勿論だが若い先生に撮影を指示している 50 代の先生もいてモラルの低下がはなはだしくなげかわしい
- ・抄録集の裏表紙のデザインについて (〇〇先生の写真のないものにオサダに変えてもらうべきと思います) 持って歩くのがイヤ
- ・どのように L for M をもらえるのか知りたいです

なお、第 111 回大会時に実施しました Letter for Members 春特別号の切り離しアンケートの結果は秋特別号にて報告予定である。

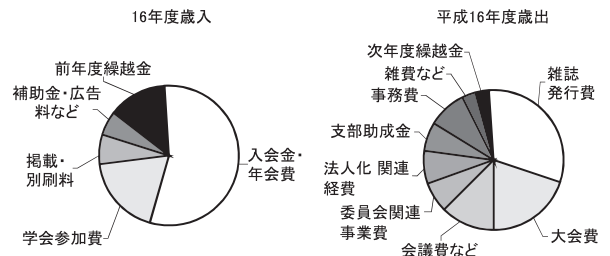
## 平成 15 年度会計報告

平成 16 年 5 月 21 日に開催された日本補綴歯科学会総会において、平成 15 年度決算および平成 16 年度予算が承認された。以下にその概要を示す。

平成 15 年度決算 (総額 120,961,970 円)

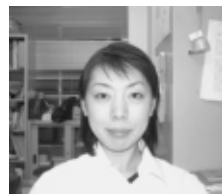


平成 16 年度予算 (総額 123,431,385 円)



## 受賞者の声

### 平成 15 年度奨励論文賞



藤波由希子

東京医科歯科大学大学院

医歯学総合研究科

摂食機能評価学分野

論文名 : Changes in Postural Control of Complete Denture Wearers after Receiving New Dentures—Gait and Body Sway—

この度、平成 15 年度日本補綴歯科学会奨励論文賞を受賞させていただき、ありがとうございます。大変光栄に思っております。

近年、義歯の装着により、咀嚼などの顎口腔系の機能や審美性だけでなく、顎口腔以外の身体機能が良好に保たれることが明らかにされていま



Mahmoud Ahmad  
Tokyo Medical and  
Dental Univ., Japan

演題名：Deflection Fatigue of Ti-6 Al-7 Nb Alloy  
Cast Clasps

A word of Gratitude

It was a great pleasure as much as a surprise for me to be chosen to receive the Dentsply merit award. Of course it wouldn't have been possible without the kind help and guidance of my supervisors to be able to finish my first work properly and present it at the 110 th meeting of Japan Prosthodontic Society in Nagano, which was a great experience and honor for me. This support and acknowledgment that I receive in Japan gives me the strongest motivation to carry on my research work. As the value of any research comes not only from the answers that it gives, setting up new questions and lighting up the way for new projects becomes it's link to the future of the ever expanding knowledge of humanity. This generous support and help that I'm always honored with, will be my strong weapon in the next steps of my research, which I look forwards to being able to finish successfully and present before you in the near future.

Finally I would like to express my highest appreciations and gratitude to all those who have helped me with their time and efforts, and to the kind acknowledgment I've been honored with.

With my Best Regards  
Mahmoud Ahmad



第 110 回大会デンツプライ賞受賞者

す。本研究は、このことから発想を得て、義歯による咬合の回復と、起立や移動などを行う際に必要な身体機能の1つである姿勢の調節機能との関連を探ることを目的として始まり、日常の基本的な動作である歩行運動に着目しました。本論文に記載した実験では、全部床義歯を新たに製作した無歯顎患者9名に対し、新義歯装着前後の歩行および直立静止時における体重心の動揺を計測しました。その結果、調整の終了した新義歯を装着することにより、歩行運動の向上と重心動揺の減少が観察され、静止時および動作時の姿勢調節機能が改善される可能性が示唆されました。

私は、1999年春に東京医科歯科大学高齢者歯科学講座（現：摂食機能評価学講座）に入局して以来、本研究の実験計画から始め、実験を行い、得られた結果を解析し、本論文を完成させるまでに4年間を費やしました。研究というものにそれまで携わったことがなく、数々の困難にぶつかり、また、実験は患者様にご協力いただいて行ったということもあり、その限界を感じることも多くありました。総じて、実験計画を綿密に立てることの大切さを学んだように感じます。

複雑に制御された全身の機能と顎口腔系の機能のかかわりを科学的に解明することは、日本補綴歯科学会の課題のひとつに挙げられているように、とても意義深いことであると思います。しかし、本論文で示すことができたことは、その目的にはまだ程遠く、今後も地道な努力を重ね、大きな目的を達成できるよう、努力していかねばと思っています。

今回の研究にあたり、終始ご指導を賜りました東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能評価学分野早川 巖教授、平野滋三助手に深く感謝いたしますとともに、研究にご理解とご支援をいただきました教室員の皆様、実験にご協力いただきました東京医科歯科大学歯学部附属病院を受診された患者様に、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

## 第 111 回大会課題口演



### 武部 純

岩手医科大学歯学部  
歯科補綴学第二講座

論文名：水熱処理した陽極酸化チタン表面上でのマクロファージからの BMP-2 遺伝子発現

この度は第 111 回日本補綴歯科学会学術大会課題口演の受賞者に選出していただき、誠にありがとうございました。大変光栄に存じます。当講座では、口腔インプラント埋入後の治癒期間の短縮や骨質の劣る部位での生着率の向上を図るためには、Bioinert と Bioactive の両方の性質を兼ね備えた口腔インプラントを用いることが有利と考え、純チタン表面を陽極酸化処理し、その後水熱処理を行うことで、陽極酸化膜上にハイドロキシアパタイトを析出させる表面処理法の有用性を検討してきました。私達はこの表面処理法を“SA 処理”と呼んでおり、SA 処理チタンインプラントは骨伝導能を有することで埋入後早期の骨形成能が高く、適応症の拡大につながる可能性を示してきました。

一方、私達は口腔インプラント埋入後の創傷治癒過程の初期に出現するマクロファージに注目し、組織再生へ働く際には骨誘導シグナルである骨形成タンパク (BMP-2) が発現されることを mRNA 遺伝子レベル、免疫組織化学的検索で明らかにしてきました。今回の研究内容より、骨の創傷治癒過程の初期に出現するマクロファージは、SA 処理チタンインプラント表面での Biological な現象により、骨誘導・骨形成シグナルである BMP-2 を発現し、骨形成因子の 1 つとして関与していることが示唆されました。本研究に登場するマクロファージは、“免疫反応や炎症反応時に出現する細胞”といったイメージが強いと思いますが、私達はマクロファージのもつ二面性のうちの組織再生作用に注目しております。創傷治癒過程の初期に出現するマクロファージは、血餅中のフィブリンにより遊走されて骨の創傷治癒を生理的に調節し誘導しており、オッセオインテグレーションの過程と現象にかかわる重要な細胞の 1 つであると考えております。

口腔インプラント治療のニーズが高まるなかで、本研究のような分子・細胞学的側面からみた

内容は SA 処理を臨床応用していくための基礎的データの 1 つではありますが、近い将来、SA 処理が口腔インプラント臨床の発展に貢献できることを願っております。

今回の研究に関しましてご理解と終始にわたり懇切なるご指導を賜りました岩手医科大学歯学部歯科補綴学第二講座石橋寛二教授に心よりお礼申し上げます。また、ともに協力し研究を行ってきた研究グループならびにご協力いただきました医局員各位にお礼申し上げます。

## 会員の声

### 多くの人に支えられて



### 細木真紀

徳島大学大学院  
ヘルスバイオサイエンス研究部  
生体システム栄養科学部門  
摂食機能制御学講座  
咬合管理学分野

徳島大学を卒業後、歯科補綴学第二講座に入局し、アレ？…気がつけば歳月は流れ、補綴女性医として経験を語ることができる歳になってしまいました。歯科の他分野に比べ、補綴は女性が少ないとのこと、確かに技工作業も他科に比べて多いため女性には負担なのかもしれません。

さて、そんな環境のなか、教育・臨床・研究・家事に子育て etc. 時間に追われ、毎日バタバタ走り回りながらも、私が続けてこられたのはひとえに周りの方々のおかげだと思います。

保育園修了 10 分前に医局からダッシュ！！デスクワークは宿題にし、実験開始時間も夜中にしてもらうなど（子供はすやすや夢の中）、坂東教授をはじめ当教室の先生方にはご迷惑をかけてばかりです。主人の留学についてスウェーデン・ Lund 大学（現マルメ大学）にも行かせていただきました。南国徳島の明るい太陽と青空に慣れ親しんでいる私にとって、冬の北欧は、寒さ以上に暗さが耐え難いものでした。その一方、女性の社会進出が進んだ福祉先進国で得たいろいろな経験は、現在の私に（そして主人にも）大きな影響を与えたと思います。なかでも“私たちの母国語も英語じゃないけれどがんばっているのだから、あなた達もがんばりなさい”といった Maria Nilner 教授の言葉は、英語が苦手な、ともすれば逃げがちな私の支えとなっています。

少子高齢化がますます進む昨今、女性の社会進出もますます盛んになると思います。女性だから…というのではなく、自然体で多くの人と支え合いともに成長し、多くの方が活躍する日本補綴歯科学会になっていくことを望んでいます。

## 関連学会報告

### 第 32 回日本顎口腔機能学会学術大会

初夏を思わせるような好天に恵まれた4月17日(土)の博多の地で、寺田善博大会長(九州大学大学院)のもとに上記学会が開催された。参加者はおよそ100人、一般講演7題と比較的小規模な学会であるが、1題あたりの割り当て時間が30分(口演時間15分、質疑応答15分)と長く、いずれの演題も時間いっぱい活発な討論がなされた。

特別講演では「歯科心身症の臨床～器質的变化に乏しい患者をどうみるか～」というテーマで、黒木俊秀先生(九州大学大学院医学研究院)が講演され、いくつかの症例を交えながら日ごろの診療で遭遇する歯科心身症についてわかりやすく解説され、今後、歯科と精神科・心療内科との連携の重要性について示唆された。

また、学会賞を受賞された山田好秋先生(新潟大学大学院)と奨励賞を受賞された齋藤一誠先生(九州大学大学院)による受賞講演が行われ、会場からも大きな賞賛の拍手をうけていた。

最後に次回開催大会長の矢谷博文先生(大阪大学大学院)から閉会の挨拶があり、成功裡に会を終えた。

(広報 諸井)

## 関連学会のご案内

### 第 21 回日本顎顔面補綴学会総会・学術大会

日 時：平成 16 年 8 月 26 日(木)、27 日(金)

会 場：福岡県歯科医師会館

大会長：松浦正朗(福岡歯科大学)

特別講演 I

「Application of tissue engineering technique in the repair of maxillofacial defect」

Liu Wei(上海第二医科大学整復外科)

特別講演 II 「顎顔面補綴の 20 年を振り返って」

香月 武(佐賀医科大学名誉教授)

連絡先：準備委員長 城戸寛史

福岡歯科大学咬合修復学講座口腔インプラント学分野(第 21 回日本顎顔面補綴学会準備委員会)

〒 814-0193 福岡市早良区田村 2-15-1

TEL：092-801-0411, FAX：092-801-0513

E-mail：hkido@college.fdcnet.ac.jp

### 第 18 回日本顎頭蓋機能学会学術大会

日 時：平成 16 年 9 月 11 日(土)、12 日(日)

会 場：チサンホテル新大阪

大会長：矢谷博文(大阪大学大学院)

特別講演「ストレスを知る」

森本兼曩(大阪大学大学院医学系研究科)

シンポジウム I 「ストレスに関する歯科疾患」

築山能大(九州大学大学院)

「ストレスの TMD」

佐久間泰司(大阪歯科大学)

「ストレスと Burnig Mouth Syndrome」

高 永和(大阪市開業)

「ストレスと金属アレルギー」

シンポジウム II

「睡眠関連ブラキシズムの基礎と臨床」

加藤隆史(松本歯科大学)

「睡眠関連ブラキシズムの基礎」

馬場一美(東京医科歯科大学大学院)

「睡眠関連ブラキシズムの臨床」

教育講演「受療者の心理的側面を知る」

矢谷博文(大阪大学大学院)

認定医研修セミナー「歯に原因のない歯の痛み」

和嶋浩一(慶應義塾大学医学部)

連絡先：実行委員長 石垣尚一

大阪大学大学院歯学研究科歯科補綴学第 1 分野

〒 565-0871 吹田市山田丘 1-8

TEL：06-6879-2946, FAX：06-6879-2947

E-mail：ishigaki@dent.osaka-u.ac.jp

### 第 15 回日本老年歯科医学会総会・学術大会

日 時：平成 16 年 9 月 18 日(土)、19 日(日)

会 場：かごしま県民交流センター

大会長：長岡英一(鹿児島大学大学院)

特別講演「長寿社会における健康」

井形昭弘(名古屋学芸大学学長)

教育講演「喫煙と健康」

中村正和(大阪府立健康科学センター)

市来英雄(鹿児島市開業)

シンポジウム I

「口腔ケアは老人医療を変えることができるか」

シンポジウム II

「摂食嚥下リハビリテーション—ヒトとしての尊厳を保つために—」

ランチョンセミナー I

「口腔ケアの効果を考える」

ランチョンセミナー II

「NST(栄養サポートチーム)と口腔ケア」

連絡先：準備委員長 西 恭宏  
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科顎顔面機能  
再建学講座口腔顎顔面補綴学分野  
〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘 8-35-1  
第15回日本老年歯科医学会学術大会事務局内  
TEL：099-275-6222, FAX：099-275-6228  
E-mail：gero15@denta.hal.kagoshima-u.ac.jp  
[http://www.hal.kagoshima-u.ac.jp/prostho2/  
gerodotop.htm](http://www.hal.kagoshima-u.ac.jp/prostho2/gerodotop.htm)

### 第34回日本口腔インプラント学会学術大会

日時：平成16年9月24日(金)～26日(日)

会場：大阪国際会議場(グランキューブ大阪)

大会長：前田芳信(大阪大学)

メインテーマ「先進展開するインプラント治療・  
インターディシプリナリー・トリートメント領  
域への拡大」

連絡先：準備委員長 十河基文  
大阪大学歯学部附属病院口腔総合診療部  
〒565-0871 吹田市山田丘 1-8  
TEL：06-6879-2386, FAX：06-6879-2387  
E-Mail：sogo@dent.osaka-u.ac.jp

### 第15回日本咀嚼学会総会・学術大会

日時：平成16年9月30日(木)～10月2日(土)

会場：日本大学会館

大会長：小林喜平(日本大学松戸歯学部)

メインテーマ

咀嚼と消化・吸収—「国際コメ年」によせて—

特別講演1「ごはん食と健康—食生態学から」

足立己幸(女子栄養大学)

特別講演2「食品の咀嚼と嚥下のレオロジー」

中沢文子(共立女子大学)

シンポジウム 1

「咬合・咀嚼と脳」

シンポジウム 2

「咀嚼とごはん」

シンポジウム 3

「健康とごはんの消化・吸収」

公開フォーラム(共催)

「咀嚼が創る健康長寿—国際コメ年によせて—」

連絡先：準備委員長 桑原克久  
日本大学松戸歯学部補綴学第1講座内  
第15回日本咀嚼学会学術大会事務局  
〒271-8587 松戸市栄町西 2-870-1  
TEL：047-360-9374 FAX：047-360-9376  
E-mail：kuwahara@mascats.nihon-u.ac.jp

### 第20回日本歯科医学会総会

日時：平成16年10月29日(金)～10月31日(日)

会場：パシフィコ横浜

大会長：江藤一洋(東京医科歯科大学大学院)

### 次回学術大会のご案内

### 第112回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成16年10月15日(金), 16日(土)

会場：横須賀芸術劇場・横須賀産業交流プラザ

大会長：豊田 實(神奈川歯科大学)

メインテーマ「新しい歯科補綴のパラダイム—生  
体との接点を求めて—」

特別講演 I

「日本の常識はなぜ世界に通用しないのか？  
—臨床医学研究の観点から—」

森實敏夫(神奈川歯科大学内科)

特別講演 II

「Current Occlusion Concepts: What Is the  
Science?」

Terry T. Tanaka (University of Southern Cali-  
fornia School of Dentistry)

特別講演Ⅲ（研究教育研修）「睡眠と健康」

高橋清久（藍野大学学長）

シンポジウムⅠ「補綴実技教育の評価を考える」

シンポジウムⅡ「再生医療と歯科補綴学の接点」

臨床教育研修

倉澤郁文（松本歯科大学）

川良美佐雄（日本大学松戸歯学部）

高橋 裕（福岡歯科大学）

## 今後の学術大会のご案内

### 第113回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成17年5月14日（土）、15日（日）

会場：グランキューブ大阪（大阪国際会議場）

大会長：野首孝祠（大阪大学大学院）

課題口演のテーマ：

1. 咀嚼・嚥下機能
2. 発語機能
3. 咬合と全身
4. インプラント
5. バイオテクノロジー
6. 新材料
7. バイオメカニクス
8. 審美
9. 補綴臨床疫学・EBD

申込方法：演題申込はオンラインのみです。

申込締切：平成17年1月18日（火）17：00

### 第114回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成17年10月1日（土）、2日（日）

会場：朱鷺メッセ

大会長：河野正司（新潟大学大学院）

## 支部会のご案内

### 東北・北海道支部

開催日：平成16年9月11日（土）

会場：ホテルメトロポリタン盛岡

大会長：石橋寛二（岩手医科大学）

シンポジウム「咬合を語る—この30年間で浮き

彫りになった問題点とその解決策を探る—」

佐々木啓一（東北大学大学院）

藤澤政紀（岩手医科大学）

皆木省吾（岡山大学大学院）

### 関越支部

開催日：平成16年9月12日（日）

会場：日本歯科大学新潟歯学部講堂

大会長：小出 馨（日本歯科大学新潟）

特別講演：「これからの歯冠修復と審美」

山崎長郎（東京都開業）

### 中国・四国支部

日時：平成16年9月4日（土）、5日（日）

会場：高知新阪急ホテル

大会長：本田常晴（高知県中村市）

市民フォーラム：「健康・噛む・美」

司会 中尾勝彦（広島県尾道市）

「よく噛んで健康に、美しく」

大山喬史（東京医科歯科大学大学院）

「口から始まるからだの健康」

赤川安正（広島大学大学院）

特別講演1：「生物学的配慮と臨床事実に基づいた口腔リハビリテーション医学を構築するために—バイオメカニクス、バイオロジー、そして臨床疫学へ—」

窪木拓男（岡山大学大学院）

特別講演2：「日本補綴歯科学会中国・四国支部学術大会30年を振り返って」

濱田泰三（広島大学大学院）

### 九州支部

開催日：平成16年8月28日（土）

会場：福岡県歯科医師会館

大会長：佐藤博信（福岡歯科大学）

シンポジウム「補綴治療に必要なチェアーサイドでできる顎機能検査とは」

矢谷博文（大阪大学大学院）

鱒見進一（九州歯科大学）

築山能大（九州大学大学院）

佐藤博信（福岡歯科大学）

### ☞ ニュース 新規評議員

東海支部

尾澤昌悟（愛知学院大学歯学部歯科補綴学第1講座）

関西支部

松尾光至（奈良県開業）

九州支部

濱野 徹（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科顎顔面機能再建学講座口腔顎顔面補綴分野）

## 認定医関係

### 認定医申請者数

平成 15 年度は 34 名であった。(平成 13 年度は 27 名, 平成 14 年度は 34 名)

### 認定状況

認定医更新申請者 31 名, 新規指導医申請者 14 名, 新規認定医申請者 22 名, 新規認定研修機関(乙) 3 機関, および認定研修機関(甲) 更新申請 24 機関の審査を行い, 全申請者および機関を認定した。

### 日本補綴歯科学会新規指導医

( ) 内は支部名

- 白井 伸一: 歯科オムニデンティックス (東北・北海道)  
清野 晃孝: 奥羽大学歯学部 (東北・北海道)  
木村 英敏: 木村歯科医院 (東北・北海道)  
小西 洋次: 北海道医療大学歯学部 (東北・北海道)  
近江谷尚紀: おうみや歯科医院 (東北・北海道)  
荒井 節男: 荒井歯科医院 (関東)  
成田 紀之: 日本大学松戸歯学部 (関東)  
鳥塚 周孝: 鳥塚歯科医院 (関東)  
澤田 智慈: 神奈川歯科大学 (西関東)  
山本 誠: 山本歯科医院 (東海)  
西尾 允秀: 西尾歯科医院 (関西)  
永尾 寛: 徳島大学歯学部 (中国・四国)  
薦田 淳司: こもだ歯科医院 (中国・四国)  
久間 一宏: 福岡歯科大学 (九州)

### 日本補綴歯科学会新規認定医

( ) 内は支部名

- 大平 千之: 岩手医科大学歯学部(東北・北海道)  
坂下 勝啓: 岩手医科大学歯学部(東北・北海道)  
梅原 一浩: 梅原歯科医院 (東北・北海道)  
廣瀬由紀人: 北海道医療大学歯学部(東北・北海道)  
大沼 智之: 日本歯科大学新潟歯学部 (関東)  
佐藤 孝弘: 新潟大学歯学部 (関東)  
若見 昌信: 日本大学松戸歯学部 (関東)  
杉山 一郎: 昭和大学歯学部 (東京)  
井上 貴章: 東京医科歯科大学 (東京)  
大木 明子: 東京大学医学部附属病院 (東京)  
荒木 次朗: 鶴見大学歯学部 (西関東)  
田村 年彦: 神奈川歯科大学附属病院 (西関東)  
鈴木 章: 松本歯科大学病院 (東海)  
藤井 肇基: 藤井歯科医院 (東海)  
佐藤 琢也: 大阪大学大学院 (関西)  
六人部慶彦: 大阪大学大学院 (関西)  
友竹 偉則: 徳島大学歯学部 (中国・四国)  
浪越 建男: 浪越歯科医院 (中国・四国)  
田口 則宏: 広島大学歯学部 (中国・四国)  
日浅 恭: 広島大学大学院 (中国・四国)  
王丸 寛美: 九州歯科大学 (九州)  
久松 徳子: 長崎大学医学部・歯学部附属病院 (九州)

### 日本補綴歯科学会新規認定研修機関(乙)

- (医) 綴理会 大山歯科クリニック  
指導医・施設長: 大山萬夫  
連携認定研修機関: 東京歯科大学  
歯科補綴学第 1 講座  
(医) 社団仁岳会 西東京歯科医院  
指導医・施設長: 竹前健彦・井上俊明  
連携認定研修機関: 日本歯科大学歯学部  
歯科補綴学第 1 講座  
(医) 社団秀英会 こばやし歯科  
指導医・施設長: 小林秀樹  
連携認定研修機関: 北海道医療大学歯学部  
歯科補綴学第 3 講座

### 認定医研修会

今後の認定医研修会は以下のテーマが予定されている。

- 第 111 回: 「補綴治療の予後に直結する落とし穴  
—補綴治療と歯根破折—」  
第 112 回: 「補綴治療の予後に直結する落とし穴  
—補綴治療と根面齲蝕(二次齲蝕)—」  
第 113 回: 「補綴治療の予後に直結する落とし穴  
—補綴治療と歯周疾患—」

NC VERACIA

ナノテクノロジーと  
機能的形態が融合した 新人工歯 **硬質レジン歯**

**NC Veracia**

医療用具承認番号 21100BZZ00271

**NC ベラシア アンテリア**

硬質レジン歯(前歯用) 1組…¥780 色調: A1, A2, A3, A3.5, B2  
形態: 上顎5形態, 下顎3形態

医療用具承認番号 21200BZZ00272

**NC ベラシア ポステリア**

硬質レジン歯(臼歯用) 1組…¥1,040 色調: A2, A3, A3.5, B2  
形態: 上下顎各2種

価格は2002年11月現在の標準医院価格(消費税抜き)です。

SHOFU 世界の歯科市場に貢献する  
**株式会社 松風**  
本社●〒605-0983京都市東山区福福上高松町11・TEL(075)561-1112(代)

# Letter for Members No. 14 2004

Japan  
Prosthodontic  
Society

日本補綴歯科学会

Japan Prosthodontic Society

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpds/>

発行人 大山 喬史 編集 広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 (財) 口腔保健協会

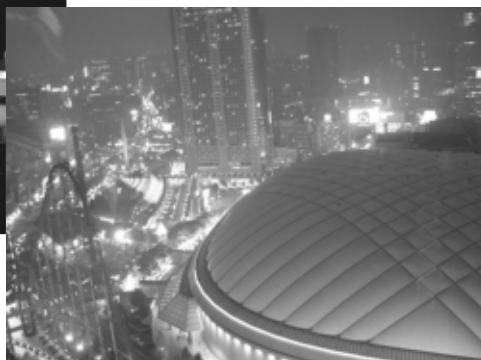
Tel 03-3947-8891 Fax 03-3947-8341

平成 16 年 8 月 10 日発行

## コンテンツ

次々期会長候補適任者は平井敏博評議員に  
決定 ..... |  
平成 18 年度からの「学術大会の年 1 回開催」  
と、法人化へむけての本学会の「解散およ  
び清算に関する会則改正」を総会で承認  
..... |, 2  
今年度より「生涯学習公開セミナー」は研修  
単位 2 単位に！ ..... 2, 3  
「認定医制度のしおり」ダウンロード化へ ... 3  
第 111 回日本補綴歯科学会学術大会と第 2 回  
大韓補綴歯科学会 (KAP) との Joint Meet-  
ing 開催される ..... 3~8  
広報アンケート結果 ..... 8, 9

平成 15 年度会計報告 ..... 9  
受賞者の声 ..... 9~11  
会員の声 ..... 11, 12  
関連学会報告 ..... 12  
関連学会のご案内 ..... 12, 13  
次回学術大会のご案内 ..... 13, 14  
今後の学術大会のご案内 ..... 14  
支部会のご案内 ..... 14  
認定医関係 ..... 15  
ニュース  
・日本補綴歯科学会新規名誉会員 ..... 8  
・新規評議員 ..... 14



学会および広報委員会へのご意見ご要望をお寄せください

日本補綴歯科学会広報委員会

委員長 冲本公繪 副委員長 北川 昇, 委員 貞森紳丞, 濱野 徹, 松山美和, 幹事 諸井亮司

TEL : 092-642-6371, FAX : 092-642-6374, E-mail : kohojps@dent.kyushu-u.ac.jp

〒 812-8582 福岡県福岡市東区馬出 3-1-1

九州大学大学院歯学研究院 口腔機能修復学講座 咀嚼機能制御学分野